傳家四季會隙氏 十八

特別
へ13
4271
18

八13
4204
18
一
91-2349

天保丙申

柳亭種彦作

偐紫田舍源氏

第十八編上冊

歌川國貞画

仙鶴堂壽梓

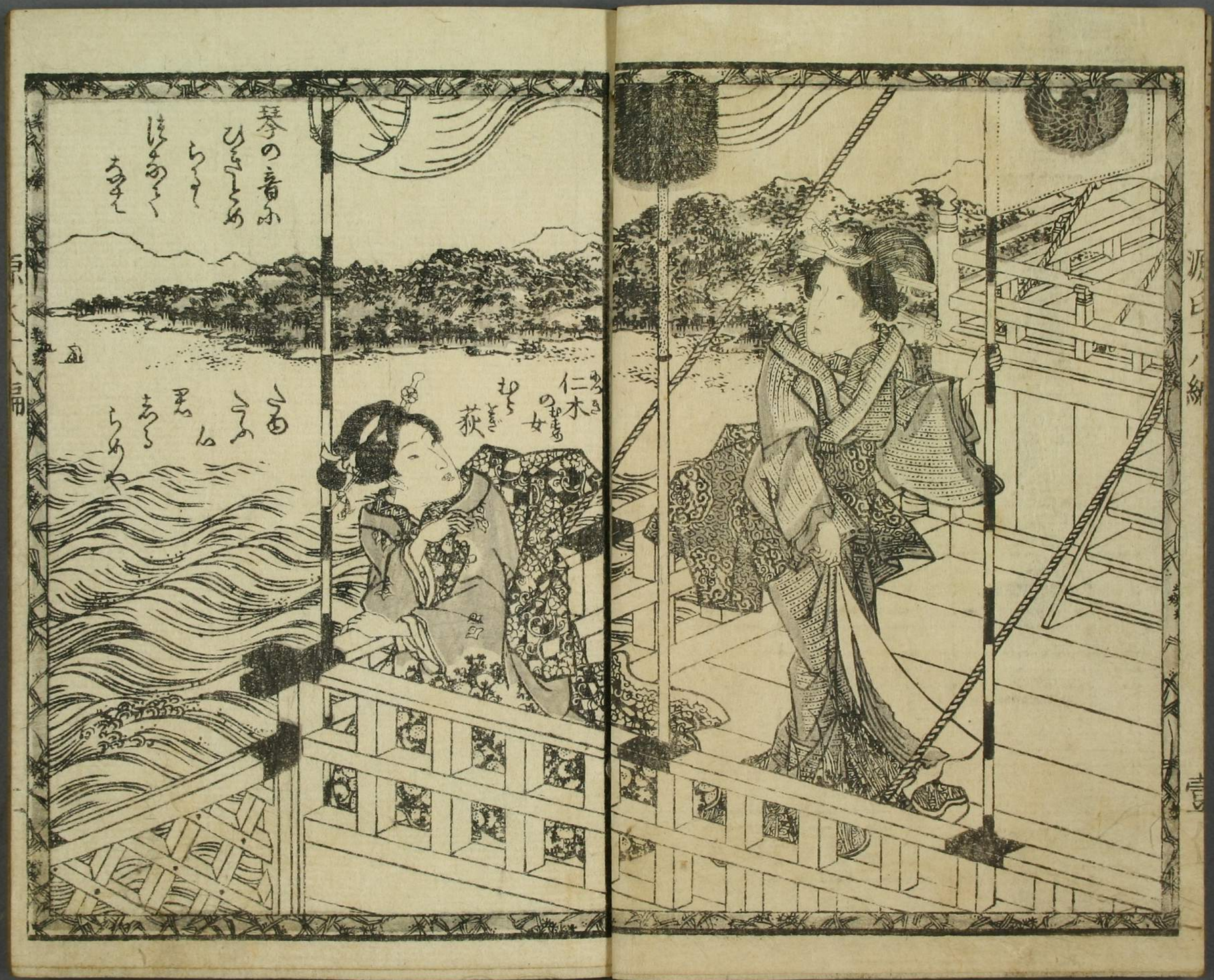
孟春發行

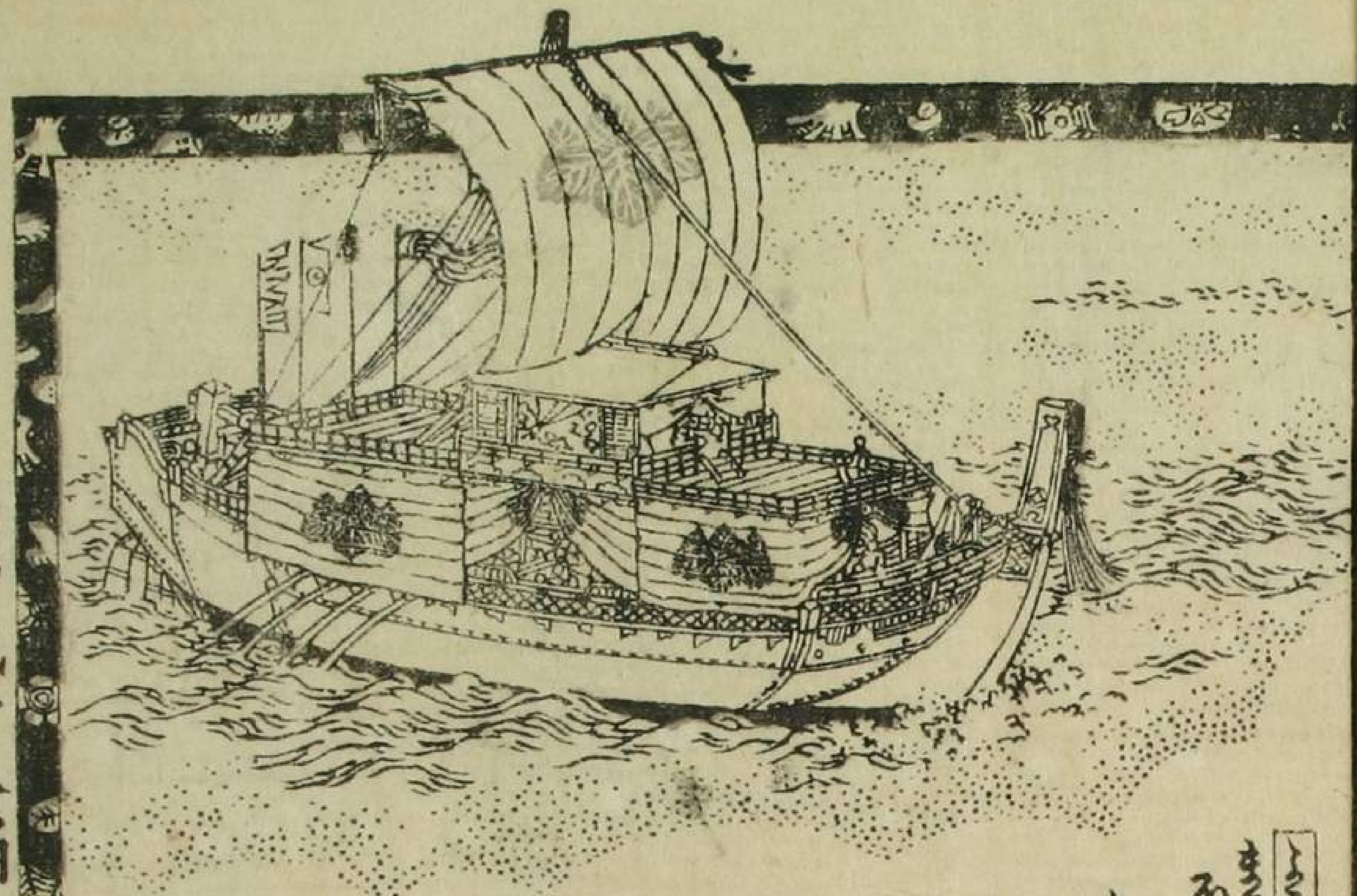
田舍源氏第十八編叙

猿猴の色の長物語おもぬ湖水の月をあんと山
王の掘木彫刻夏十八編賣出せもの申の春孫彦
玄孫ふ〻うる宇治十帖のもゝ多までの従者端方の
系圖の混乱書とう雑く思へやゝも三間堂の佛ゝ
御見屋の光りこゝ二万三千三百丁續ゝたりで
初年より今まぐ祇と拂八年是も猿ゆの縁のひる
當ふとりの草紙の吉瑞拭んで投し蟹の甲這ゝる
程とりゝ須磨より明石の巻ようゝわり

天保丙申孟春

柳亭種彦記


琴の音ふ
仁木の女
萩

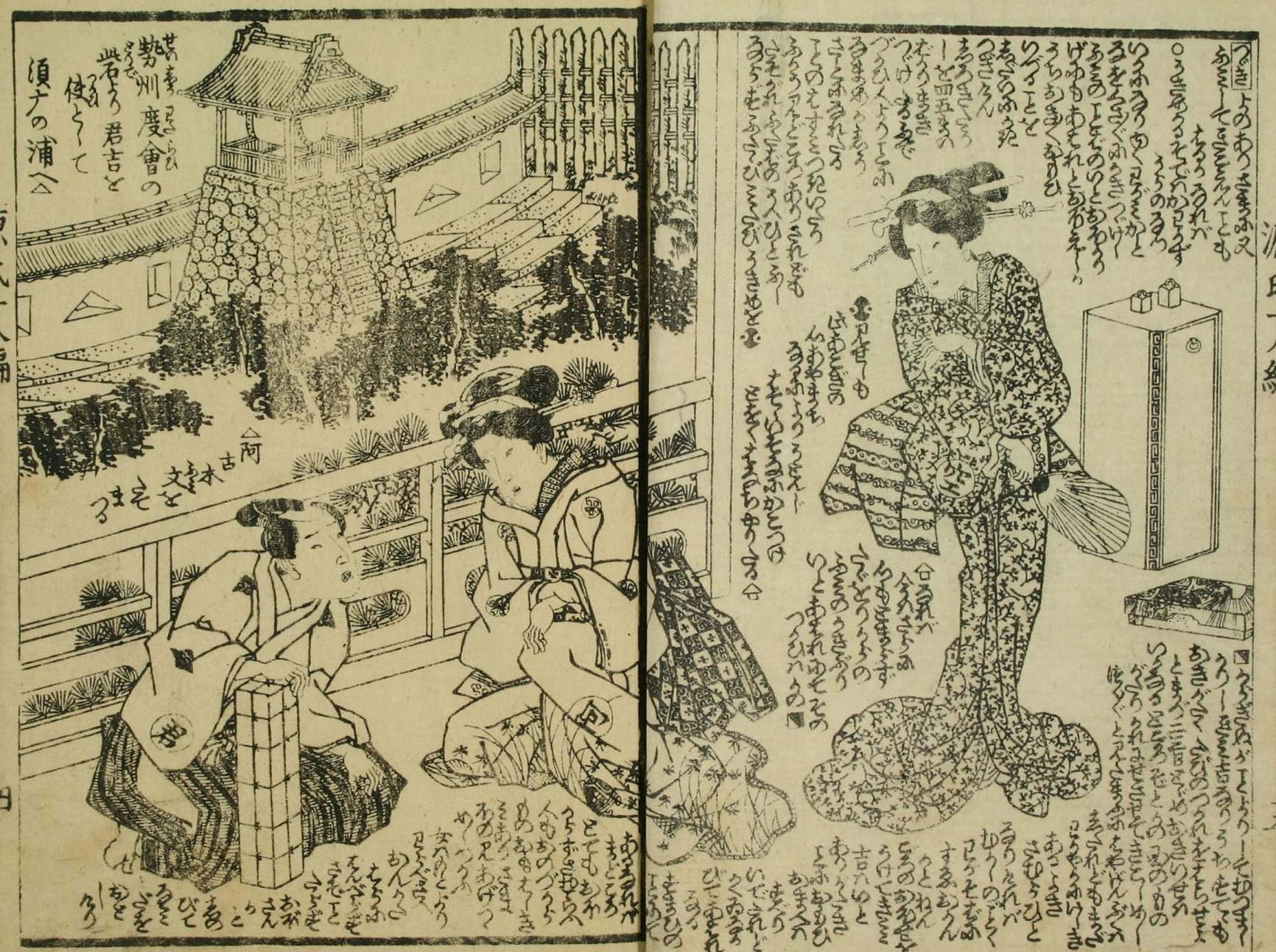


よしきりめ

まことや さびしき
わどの まぎれまきまきの
まきまきの なきなれきらの
ゐのせくぞうたる
あさぎの ゆりえも
まのびやうは おんつゐひと
たそられかれば うきさ
よりも まき吉を こきざく
まま人ぞ たぐさ
よくこそ 弓□をさわりし と
光氏は ちよくよびきよの助
らぐあし ときゑあときの ふきを
みさまふみ うつし上は
おもひ出られぬ ひとの
おんまきまひの ありさまを
さてまたも みきとのぬ
夜の ゆめのとおぼろ
あどろかれん さまとひて
今さら ゆめの べきさ
よくもえんべそ ず さる
まうるから 年月を
もぐし さまにて 又めぐの
こゝろへ くるりさくゑて
あきらへぶつゞの せの うさく
これの ろうかめんよまさでも ゐるし
よろづはあめひ こぼれ るる つゞき

ちゞひきて
ひくての緒の
たゆとても
うちすさき
ましやすまの
浦波

足利光氏



菊

天保七年丙申春新彫

偐紫田舎源氏　柳亭種彦作　歌川國貞画

当年十八編まで出来開板おかたらずに笑覧を種奉希ハ

一筋道雪駄望　笠亭仙果作　全四冊　歌川國芳画

種彦校合　仙客亭柏琳作　井筒屋の藐子　八百屋乃娘

紫房紋多箱　全六冊　歌川貞秀画

糸柳花縁結　笠亭仙果作　全四冊　歌川貞秀画

世話蒙求　笠亭仙果作　全四冊　歌川貞秀画

御多福そび袋入小絵ざうし　種彦改書貞秀画

昔噺さくらんぼ　三冊

むかし話浦島ぢゝい　三冊

むかし話大きなかぶ　二冊

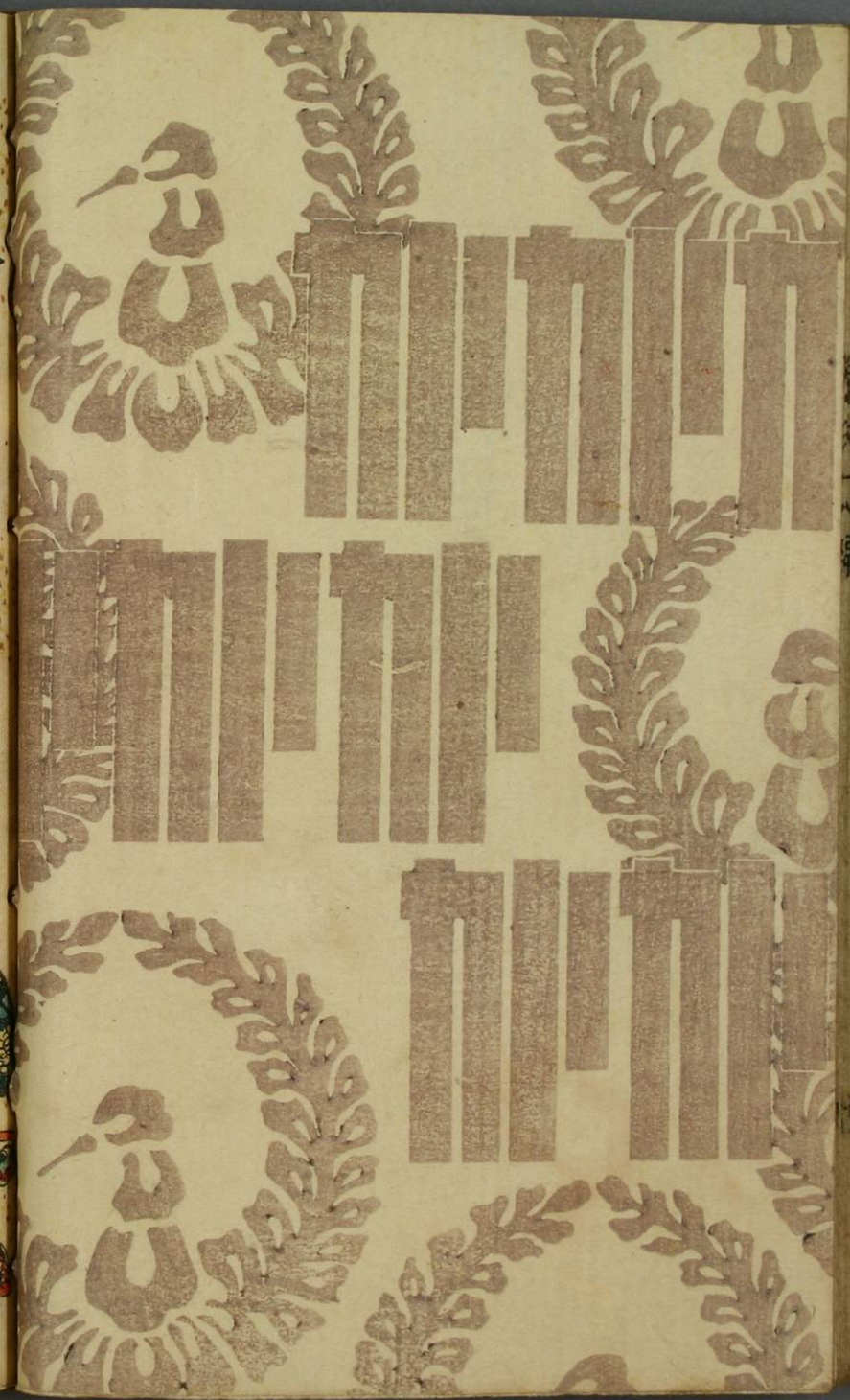
茶番のいろは　二冊

書物地本錦繪問丸　通油町　仙鶴堂鶴屋喜右衛門

四合源氏

四貞画

十八編下



源氏物語

十八編

下冊

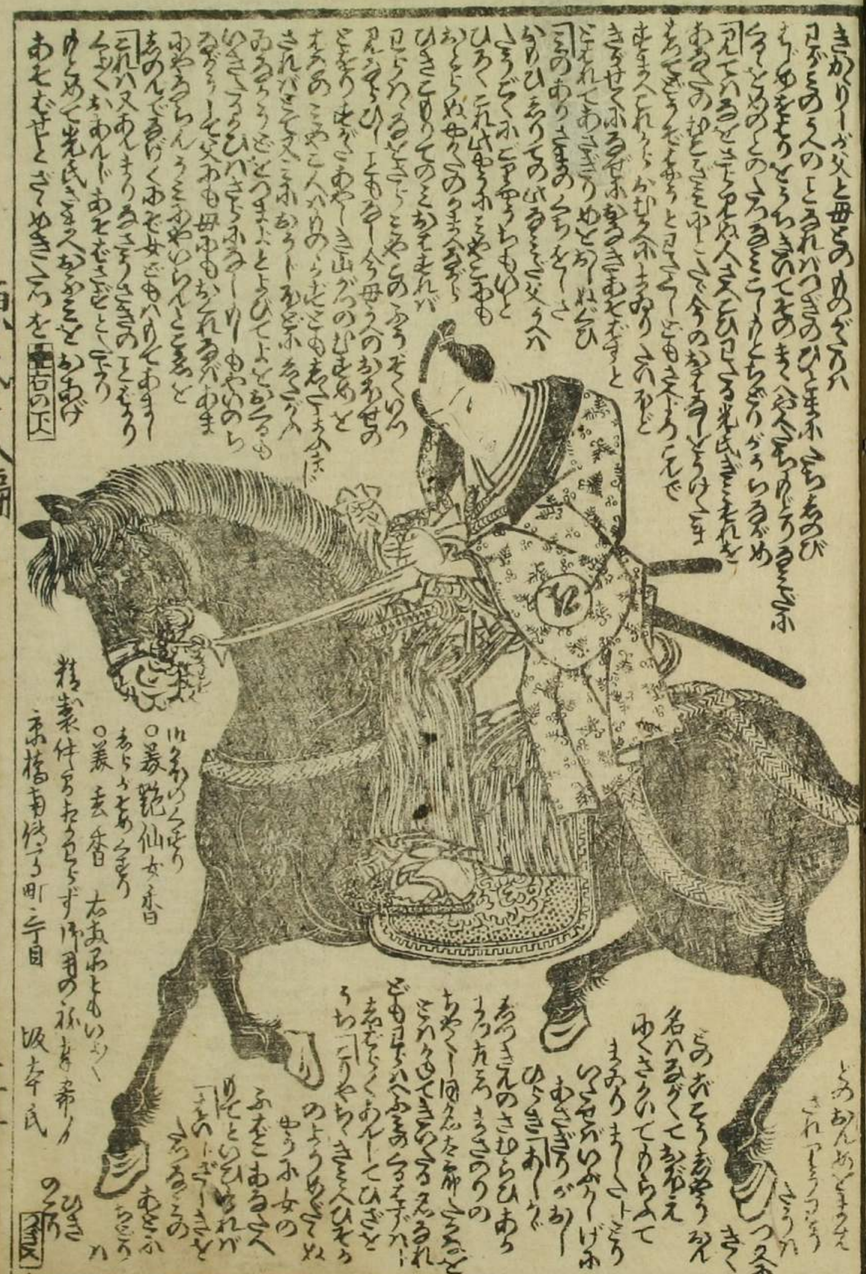
種彦作
國貞画

通油町
鶴屋
上梓

源氏一ノ絵

▲上分

▲十八ハ



柳亭種彦作　歌川國貞画

浄書　千形道友

天保七年申春新彫

琴声女房形氣　全四冊　歌川國貞画

森羅萬象八意氣　全四冊　五柳亭徳井作　歌川國芳画

浮波さうし　八冊　柳亭種彦作　歌川貞秀画

烏勘左衛門忠義傳　全四冊　歌川國芳画

稲葉山操の松枝　全四冊　宝田千町作　歌川國芳画

國字水滸傳　十四編　四冊　笠亭仙果譯　歌川國芳画

南塗壁町二丁目西側　坂本氏製造
御かおの美容
美艶仙女香　四八銅
黒油美玄香　四八銅　薬屋右衛門

書物錦繪　江戸通油町
團扇地紙　問屋鶴屋喜右衛門